

# Syllabus

開講年度	開講学部等		
2022	共通教育		
開講学期	曜日時限	授業区分	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント
後期集中	集中	講義	5.8ポイント
時間割番号	科目名[英文名]		単位数
1002220003	知財展開科目 [標準化と知的財産] [Intellectual Property Development Subject]		1
担当教員[ローマ字表記]			
陳内 秀樹 [JINNAI Hideki], 生田 容景			
授業科目区分	対象学生	平成25年度～令和2年度入学者	対象年次
			～

## 持続可能な開発目標 (SDGs)



※この科目は、学部生向けに開講しています。  
同時に山口大学知的財産教育プログラム(履修証明プログラム)として提供される科目(1単位15時間以上)です。  
履修証明プログラムにおいても科目の修得基準は60点以上です。  
また、本科目では教員、学生間が双方向で議論する授業を行います。  
開講日時は決定次第お知らせいたします。  
※二日間の集中講義<吉田キャンパス>  
2022年11月26、12月4日共に9:00～16:20開講予定。

## 開設科目名(英訳)

Standardization and Business

## 使用言語

日本語

## 概要(共通教育の場合は平易な授業案内)

経済のグローバル化が進む中、自らの技術を国際的に広めるためには国際標準の獲得が重要になっています。例えば、いかに優れた製品であっても国際標準とならなかったために海外において販売ができないなどといったことが起こっています。本講義では標準化の概要や標準をどのようにしてビジネスに活用していくのか、また知的財産権との関係等について解説します。授業は、後期集中講義形式で吉田キャンパス、時間帯は8:40～16:00で実施します。

## 一般目標

- 身近な製品やビジネスについて、標準の観点から考える力を身につける。
- 標準化を通してグローバルな視点で思考する力を身につける。
- 標準化とビジネスの最先端で活躍中の専門家の話に直接触れ議論することで、ビジネス上の解決策を導き出す力を身につける。

## 授業の到達目標

知識・理解の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準が身近な製品や生活に活用されていることを理解する。</li> <li>標準とビジネスの関係について理解する。</li> <li>標準に基づく適合性評価制度について理解する。</li> <li>標準と法律(知的財産法、独占禁止法)との関係を理解する。</li> </ul>
思考・判断の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた状況において、ビジネス上の合理的な判断をすることができる。</li> </ul>
関心・意欲の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準化がどのように生活やビジネスに役立っているか関心を持って思考することができる。</li> </ul>
態度の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準とビジネスとの関連性を踏まえて思考することができる。</li> </ul>
技能・表現の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスにおける標準の活用について自ら考え、他人に正しく伝えることができる。</li> </ul>
その他の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準の重要性を理解するとともに、自ら標準作成に関わる姿勢、ツール(手段)を持つようになる。</li> <li>標準の重要性について、社内(組織内)でトップマネジメントを説得できるようになる。</li> </ul>

## 授業計画

現代ビジネスでは標準・標準化が大きなキーワードとなっている。標準・標準化の概要を理解し、それを適切に活用して自らの技術を世界に広げる意識を持つために、実例の解説を通して学習を進める。

期末試験を実施予定です。

※AL(アクティブ・ラーニング)欄に関する注

①A～Fのアルファベットは、以下の学修形態を指しています。

【A:グループワーク】、【B:ディスカッション・ディベート】、【C:フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)】、【D:プレゼンテーション】、【E:振り返り】、【F:宿題】

②【多】、【中】、【少】は授業時間内におけるALが占める時間の割合を指しています。

【多】:授業時間の50%超、【中】:授業時間の15%～50%、【少】:授業時間の15%未満。「振り返り」と「宿題」については該当する場合に【あり】と表示されます。

項目	内容	授業外指示	授業記録	※					
				A	B	C	D	E	F
第1週 標準化とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準化はインターフェースを実現</li> <li>標準化の目的</li> <li>標準が作られる場所</li> <li>規格化と標準化の違い</li> <li>標準の種類別の役割と認証</li> <li>国際規格の重要性</li> <li>最近の基準認証政策の取組とJISCの活動</li> <li>演習 I</li> </ul>			【少】(授業時間の15%未満)	【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)		
第2週 標準化の歴史的トピックと現代	<ul style="list-style-type: none"> <li>1717年 マスケット銃モデル1717の標準化</li> <li>1861～1865年 南北戦争</li> <li>1887～1892年 エジソン対ウェスティングハウス</li> <li>1908年 T型フォード発売</li> <li>演習 IIとIII</li> </ul>			【少】(授業時間の15%未満)	【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	
第3週 標準化のビジネス効果とデファクトスタンダード	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準化のビジネス効果</li> <li>ビジネス効果</li> <li>製品標準のメリットとデメリット</li> <li>ネットワーク外部性</li> <li>スイッチングコスト</li> <li>演習IVとV</li> <li>デファクトスタンダードとコンセンサススタンダード</li> <li>デファクト標準とは</li> <li>デファクト標準とデジュール標準</li> <li>デファクト・デジュール・フォーラム標準</li> </ul>			【少】(授業時間の15%未満)	【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	
第4週 デファクトスタンダードの事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>AV分野でのデファクトスタンダード競争</li> <li>レコード、テープレコーター</li> <li>ビデオの標準化競争</li> <li>カムコーダー、ビデオディスク</li> <li>コンパクトディスク DVD</li> <li>DVDプレーヤー製造に必要なライセンス</li> <li>記録型DVDの標準化</li> <li>DVD標準化におけるハリウッドの圧力</li> <li>マルチスタンダードの活用</li> <li>演習VI</li> </ul>			【少】(授業時間の15%未満)	【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	
第5週 サプライチェーンとインターフェースの標準化	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーンと標準化</li> <li>サプライチェーンでみる標準化</li> <li>光コネクタ</li> <li>標準化と利益確保の両立の理想形</li> <li>自社の事業領域で理想形に無近づけるには</li> <li>インターフェース標準化</li> <li>コダックデジタルカメラファイル</li> <li>フォーマット</li> <li>メモリーカード</li> <li>IEEE1394 VS USB</li> <li>インターフェース標準の設計</li> <li>カセットボンベの標準化</li> <li>液晶パネル材料</li> <li>パソコンとインテル</li> <li>演習VIIとVIII</li> </ul>			【少】(授業時間の15%未満)	【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	
第6週 試験方法標準	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験方法標準による差別化</li> <li>演習IX</li> <li>試験方法標準のリスク</li> <li>演習X</li> <li>クラス分け標準</li> <li>クラス分け標準のリスク</li> </ul>			【少】(授業時間の15%未満)	【中】(授業時間の15%～50%)	【少】(授業時間の15%未満)	【少】(授業時間の15%未満)	【あり】	
第7週 適合性評価と認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>適合性評価とは</li> <li>歴史、適合性評価の主体</li> <li>供給者適合宣言(自己認証)</li> <li>第三者適合性評価</li> <li>第三者認証制度</li> <li>適合性評価を用いた制度</li> <li>海外の適合性評価</li> </ul>			【少】(授業時間)	【中】(授業時間の)	【少】(授業時間)	【少】(授業時間)	【あり】	

		認定機関の品質確保 適合性評価システムの構 造 ・認証を使うメリット ISO9000、ISO14000 等 ・演習ⅩⅠとⅩⅡ			の15% 未満)	15%～ 50%)	の15% 未満)	の15% 未満)		
第8 週	オープンイノベーションと標準 化	・二つのタイプのオープンイ ノベーション ・知財と標準化のビジネス活 用 ・研究開発の段階別の利活 用 ・段階別に見た技術形態の選 択例 ・演習ⅩⅢ ・演習ⅩⅣ(演習)			【少】(授 業時間 の15% 未満)	【少】(授 業時間 の15% 未満)	【少】(授 業時間 の15% 未満)	【少】(授 業時間 の15% 未満)	【あり】	

5.8ポイント

#### 成績評価法

期末試験、宿題・授業外レポートをもって、総合的に評価する。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	JABEE収 集資料
定期試験(中間・期末試験)	---	---	---	---	---	---	35%	---
小テスト・授業内レポート	---	---	---	---	---	---	25%	---
宿題・授業外レポート	---	---	---	---	---	---	20%	---
授業態度・授業への参加度	---	---	---	---	---	---	---	---
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 演習	---	---	---	---	---	---	10%	---
出席	---	---	---	---	---	---	欠格条件	---
その他	---	---	---	---	---	---	評価に加えず	---

	ファイル名	備考
ルーブリック等の評価基準	設定されていません。	

(注)ルーブリックとは、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される評価指標のことを言います。

#### 教科書にかかわる情報

##### 教科書その他の情報

「教則 標準化とビジネス」著者 江藤 学 辻田 美紗 佐々木 通孝

以下からダウンロードください。

[https://www.jsa.or.jp/datas/media/10000/md\\_4944.pdf](https://www.jsa.or.jp/datas/media/10000/md_4944.pdf)

#### 参考書にかかわる情報

参考書	書名	JISハンドブック「国際標準化」(日本規格協会)			ISBN	
	著者名	日本規格協会	出版社	日本規格協会	出版年	
参考書	書名	JISハンドブック「適合性評価」(日本規格協会)			ISBN	
	著者名	日本規格協会	出版社	日本規格協会	出版年	
参考書	書名	「標準化実務入門」(平成28年度出版)			ISBN	
	著者名	経済産業省監修	出版社	日本規格協会	出版年	

#### 参考書その他の情報

#### メッセージ

ケーススタディーにより議論し、理解を深め戦略的な思考力を育みます。

ルールメーカーとなり、世界を牽引する力を磨きましょう。

#### キーワード

標準、標準化、国際標準、ISO、IEC、ITU、JIS、認証、適合性評価、知的財産、標準必須特許

## ■ 持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs4(教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

SDGs8(経済成長と雇用)包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。

SDGs9(インフラ、産業化、イノベーション)強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。

SDGs12(持続可能な生産と消費)持続可能な生産消費形態を確保する。

## ■ 関連科目

科学技術と社会

## ■ 連絡先

陳内 h-jinnai@yamaguchi-u.ac.jp

生田 yklee@yamaguchi-u.ac.jp

## ■ オフィスアワー

普段は常盤キャンパスにいます。

基本は、電子メールにて連絡下さい。